



しおかぜ通信

学校教育目標「自ら学ぶ子供」 R7,9,24 No,18

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



郡築小ホームページ

「ともだち」をテーマに話しました

令和7年9月18日(木)、集会日課として生み出した20分間を使い、全校集会(校長講話)を行いました。今回は、オンラインで「ともだち」をテーマに話しました。

「10歳の壁(9歳の壁)」という言葉を聞かれたことはありますか。個人差はありますが、10歳前後(中・高学年頃)になると、脳は幼児の脳から「学習する脳」へ変化し、自己理解が高まり、自分の能力などを自覚するようになります。そして、それを他者と比較し、優越感から批判したり、劣等感からねたんだりして、友達関係を崩すことがあります。(時にはいじめに発展することもあります)また、この時期は、他の理由からも友達関係に悩む子供は少なくありません。



そこで、子供たちに「どんな人ともうまく付き合える力を身に付けてほしい」と願い、次のような話をしました。

*子供のうちは友達も必要だけど、「友達をつくろうとする行い」が大事。人とどうやってつながっていくか(どうやって一緒に過ごすのか)について工夫することが大事。学校はそれを学ぶところ、将来社会に出て楽しく生きていくための練習の場である。

*心(脳)の変化を知り、友達に対して優越感から批判したり、劣等感からねたんだりすることなく、「心に線を引きながら(自律)接することが大事。

*人付き合いで大切なことは、相手に不愉快(嫌)な思いをさせないこと。「みんな仲良く」でなくてもよい、「友達になれないと思う人とも傷つけ合わずに穏やかな関係を築く」ことが大事。

*友達の数の多さは関係の豊かさを示すものではない。大事なのは、お互いを高め合う(向上心でつながっている)関係の友達(=最高の友達)をもっているかである。

人は、生涯に約3万人と出会うと言われています。小・中学校で友達と積極的に関わり、失敗しながらも人付き合いの練習を積み、その経験を将来社会に出て生かしてほしいと思います。

第1回全校タイピング大会開催

令和7年9月17日(水)、19日(金)の2日間、「第1回全校タイピング大会」を行いました。これは、タイピングサイト「寿司打」を使って、ローマ字タイピングの速さと正確さを競う大会です。17日(水)は24人、19日(金)は17人の子供たちが参加し、挑みました。

毎週木曜日の朝自習に、ローマ字タイピング練習を行っていますので、これまでの練習の成果を発揮しようと子供たちは真剣な表情で臨んでいました。成績上位者は、全校集会で紹介し表彰する予定です。来月も実施予定ですので、また多くの子供の挑戦を待っています。

熱中症の心配や雨で外で遊べない昼休みが続いた中、教職員の発案で始まったこのユニークな大会に、多くの子供が参加したことを嬉しく思います。今後、もっと盛り上がり、タイピングスキルがどんどん上達し、2年後に開始する全国学力・学習状況調査(全学調)のコンピューターベースのテスト(CBT)に備えたいと思っています。



※タイピング練習は、全学調などのテストにおいて、タイピングスキル不足が原因で本来の能力が発揮できないことがないように、今年度から全学年で始めています。

「子育て」一ロメモ

「自己中心性は、精神的未熟さの証拠」 幼児教育家 はやし浩司

相手の心の中に、一度入って、相手の立場で考える。これを心理学の世界でも、「共鳴性」という。それができる人を、人格の完成度の高い人という。そうない人を、低い人という。学歴や地位とは、関係ない。ないばかりか、かえってそういう人ほど、人格の完成度が低い人が多い。そのためにも、まず親のあなたが、自分の自己中心性と戦い、子供に、その見本を見せるようにする。